

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for 株式会社 ケア・ハート.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170501639-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Details for 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は地域資源の活用や交流の機会が多く、利用者さんにとっても生活に楽しみを持って過ごせている方が多いと思う。近所の美容室や喫茶店を利用したり、町内会行事の運動会等に参加したり、近所の未就園児のお母さん方が集まって行っているサークルと夏祭りや七夕祭り、ハロウィン、クリスマスなどのイベント協力、ボランティアさんによる演奏やカフェの催しなども行っている。その他、事業所の職員は普段からも毎日様々な活動やレクリエーションを企画実施している。職員に対しては、個々の能力に応じた研修参加や資格取得の機会を設けたり、残業なく、希望の休暇を取りやすいようにと努めたり、食事会や忘年会など職員間での親睦を深める機会を定期的につくりと働きやすい環境づくりに力を入れている。幸いこの3、4年程は離職者はなく、利用者とも馴染みの関係ができていたりと安定したケアサービスが提供できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームあかしあは、地下鉄駅から徒歩圏内、病院やコンビニ、郵便局が立ち並び閑静な住宅街にあり、生活しやすい環境にある。地域をはじめ家族、関わりのある人達との良好な協働が事業所の特徴であり、「ゆったりと笑顔で楽しく」の理念の下で、その人らしく、ごく普通の生活が継続できるよう取り組んでいる。運営推進会議には、地域から複数名の協力があり、町内会の運動会では利用者が参加しやすい配慮を得ている。各種ボランティアの来訪や、地域のお母さん達との協力を通し、子供達との交流も多彩である。家族には、アンケート調査で意向を聞き取り、共に利用者を支える関係作りをしている。また、医療面では、訪問診療・看護と密に連携した健康管理と、希望に寄り添った看取りケアを行っている。利用者はできる事で家事仕事に参加し、歌唱や各種体操、コロナ禍の対策を講じながら旭山公園散策に行くなど、利用者の笑顔を引き出し、心身の機能維持を図っている。働きやすい職場環境を整え、馴染みの関係の中で認知症ケアの専門性に基づく支援に取り組んでおり、一人ひとりの状況や個性、希望を踏まえたサービスが、利用者の安心と楽しみの多い生活を創っている。

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Contains 8 rows of evaluation items (No. 56-63) regarding service outcomes.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護事業を通じて地域社会に貢献するという理念の下、職員間で共有し、近隣住民との行事交流や事業所会議にて町内会の方と意見・情報交換など定期的に行っている。	法人事業所共通の理念を掲げ、各ユニットのスタッフルームに掲示している。職員は、「ゆったり、笑顔で、その人らしく」をサービスの基本姿勢として、会議や日常業務、入職時研修等で理念を確認、共有し、日々の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の美容室や喫茶店を利用。その他町内会の運動会等の行事へ参加。地域のお母さん方のサークル活動と連携し夏祭りやハロウィンなどの行事を行っている。	積極的に地域交流に取り組んでいる。町内の運動会に利用者と共に参加し、各種行事を地域の母親サークルと協力して行い、子供達と賑やかに触れ合っている。また今年度は町内会の班長を引き受け、地域活動の一端を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に運営推進会議や行事へ参加して頂き、その中で認知症の人の様子や活動状況を伝える事で理解を深めてもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	事業所活動報告の他、職員研修の状況や事故報告等行い、そこでのご意見を都度今後のサービスに活かせるよう努めている。	会議は、家族や地域、包括支援センターなどの参加協力により、定期的で開催している。報告事項は写真やビデオで説明したり、研修報告、専門家による勉強会、地域や行政サイドの情報を得るなど、会議の充実に努めている。今年度は書面会議で報告、評価を受けている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とのメールでのやり取りの中で、事業所の実情や取り組みを報告している。事業所会議を通じて地域包括支援センターの職員との定期的な情報交換を行っている。	行政担当者とは随時連絡を取り、運営面や感染症対策などを相談している。包括支援センター主催の地域ケア会議に参加し、また、利用者の安定生活に向け、ケースワーカーの来訪時などでも協働している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設置し、定期的に当事業所利用者の事例検討などを行っている。その他職員には内外部への研修への参加、理解を深めてもらった上で身体拘束をしないケアに取り組んでもらっている。	身体拘束適正化に向けた指針に沿い、事業所内に委員会を設置し、3カ月毎にケアの実際を振り返っている。定期的な勉強会では、ゼロの手引きを活用し、内容の正しい理解につなげている。不適切と思われる言葉への対策も全職員で取り組み、拘束や抑圧感のないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように日々、利用者の生活の様子や身体状態を注意し観察している。	内外部への研修にて高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、虐待が見過ごされることがないように日々、利用者の生活の様子や身体状態を注意し観察している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び理解している。必要に応じて個々の必要性について関係者と話し合いや活用する体制でいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面と口頭説明により理解・納得が得られるように努めている。その都度不安や疑問点がないか尋ね確認している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時やアンケート調査の実施などにより頂いた意見や要望など検討し運営に反映している。重要事項説明書に相談や苦情申し立ての窓口を明記し契約時に説明している。	家族には、来訪時や毎月の便り、電話やライン等で暮らしの様子を報せている。家族の意見等は対話の中での聞き取りのほか、アンケート調査で率直な意見を吸い上げ、サービスへの反映と、その報告を行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、定期的な会議や個人面談の場で意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。	職員の意見は、会議や申し送り、個人面談など、日頃からコミュニケーションを図り、運営やケア、レク活動等に活かしている。代表者の来訪も頻繁にあり、事業所内の現状を把握し、より良い職場環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	来年度を目途により個々の努力や実績を評価できるよう評価表の整備、給与水準や労働時間、やりがいなど各自が向上心を持って働けるよう就業規則の整備などに現在取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立案し、その計画に基づき職員が法人内外への研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は北海道グループホーム協会の総会や地区管理者連絡会への出席、その他職員は外部研修参加を通じて同業者との交流、ネットワークづくりの機会になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係が築けるよう、理解的態度の技法を意識した対応を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の立場を理解し、不安や要望などに耳を傾け言葉掛けをしている。面談の時間も十分にとれるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に十分な情報収集をした上で社会資源も含めた他のサービスの必要性を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	フロアのお掃除や調理、洗い物など一緒に協力して行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事参加、外出や病院受診など積極的に協力して頂き、共に支えていく関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人の面会など気軽にして頂けるよう声掛け配慮している。行きつけの美容室やお店での買い物など個々に合わせて外出機会を持っている。	周辺地域から入居した利用者も多く、今までの生活の延長として、友人等の来訪や、馴染みの美容室等の利用、自宅帰宅や墓参りなど、親しい人達とのつながりや、生活習慣が継続できるよう、家族の協力も得て支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちな利用者に対しては、職員が介入し他者との良好な関係が築けるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族の希望に応じてアドバイスなどの支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中から、思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合には本人の生活歴・習慣など考慮し検討している。	寄り添う中で、言葉や言葉にしづらい思いの把握を心掛け、入居時の基本情報や家族からの情報も加え、「本人にとってどうか」を検討している。アセスメントは、本人の全体像が把握できるように使用ツールを工夫している。	人生の最終段階である終末期の過ごし方について、利用者一人ひとりの意向を聞き取り、記録に残すことを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の他、各関係機関、可能であれば友人などにも協力して頂き、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの様子や活動状況を記録、整理し、アセスメント用紙を活用して現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に本人や家族、医師や看護師の意見を確認した上でカンファレンスを実施。職員の意見やアイデアを反映し、ケアプランの評価・見直しを行っている。	介護計画は、3～6か月の定期的のほか、変化等に応じて見直しをしている。利用者、家族の意向、医療関係者の意見を踏まえ、モニタリングや課題分析に基づき、本人主体の計画を作成している。計画に対しての実践は日々の記録で確認し、次計画の作成に生かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録は介護計画に沿ったものとなっている為見直しに活かしている。情報共有は毎日の申し送りや連絡ノートなどで行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各書類の手続きや病院受診の付き添い、買い物など基本ご家族にお願いしているが、状況に応じて代行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園や飲食店などの利用、町内会やボランティアの協力により運動会等への参加、演奏や手品などの鑑賞をし、暮らしを楽しむ事ができるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に合わせて医療機関を選択してもらい、密に情報共有を行っている。	利用者、家族の希望のかかりつけ医となっている。協力医療機関の訪問診療と緊急時連絡体制、看護師の訪問など、適切な医療を受けられるよう体制を整えている。外来受診等は家族と協力して支援し、健康状況を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護職員や当事業所の協力機関の看護師と日常の様子や気づきを都度相談できる関係ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	可能な限り面会に伺い、その都度病院関係者からも本人の様子や治療経過など確認している。回復次第早期に退院できるよう意向を伝えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主にサービスの開始前に重度化した場合の指針について説明、書面にて同意を得ている。本人の心身状態の変化に伴い終末期のあり方について話し合いの場を持っている。	重度化や終末期のあり方については、入居時や段階ごとに意向を確認しながら話し合っている。重篤時には希望する終末期の過ごし方の再確認と、主治医も交え方針の共有をしている。安心して終末の時を過ごせるよう、関係者間で密に連携し、看取りケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員対象に年1回の救命救急講習の実施。急変時や事故発生時のマニュアルをいつでも確認できるよう業務ファイル内や事業所内に掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災を想定した避難訓練の他、防災マニュアルを基に避難場所の確認や移動方法などのシュミレーションを行っている。また運営推進会議で町内会の方と協力体制などについて話合っている。	年2回主に夜間を想定した避難訓練を実施し、併せて地震など自然災害について机上確認を行っている。法人内協力や地域と相互協力の体制を整備し、水や食料、災害用備品の準備、防寒対策等を講じるなど、対策の強化に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	倫理規定やマニュアルの下、1人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	職員は、利用者の人格尊重の基本姿勢を身に付け、特に排泄介助等では、目立たずさりげない声掛けや誘導を心掛け、羞恥心やプライドを傷つけないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活場面では、都度本人の意向を確認しながら支援するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、食事や休息、入浴や散歩など本人の希望時にできるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援が必要な方には意向を確認、選択肢を用意して洋服など選んでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、配膳、後片付けなど個々能力や好みに合わせて協力して行ってもらっている。役割として定着している方もいる。	食を通しての力の発揮や満足感を大切にしている。利用者も食事作りに参加し、収穫野菜を使ったり、週1回自由メニューでその時の食べたいものを取り入れている。時にはケーキバイキングや生寿司、外食なども楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録にて食事量や水分量をチェックし、必要に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	往診の歯科医から月に1回口腔ケア指導を受け日々の支援に活かしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンや習慣、様子の変化に応じて誘導するようにしている。	個別の排泄リズムや自立状況を踏まえて、トイレ排泄を基本に、出来ない部分の介助に努めている。個別に応じた誘導や、食事や水分、運動等の配慮による排便対策を取ったり、希望によりポータブルトイレの設置などで、排泄面の不安や不快感が軽減できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い野菜やキノコ類の使用、ヨーグルトを出すなどの工夫の他、毎日体操や散歩など運動を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	生活リズムや血圧の変動など考慮し、入浴は午後からとしている。都度本人の希望を確認した上で入浴支援を行っている。	毎日入浴の準備をし、個別に週2、3回の入浴支援である。シャワー浴や清拭なども身体状況を考慮して対応し、清潔保持に努めている。気持ち良く入浴できるよう上手な声掛けをし、入浴剤も希望を聞き使用している。家族と一緒に温泉に行く利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や就寝は本人のペース、タイミングで行ってもらっている。安心して気持ちよく眠れるように部屋の明りや温度、物音などに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や効果、用法、用量についてお薬の情報シートで確認。服薬支援、症状の変化は担当者が都度確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の散歩や掃除、台所の手伝いなど楽しみや役割として行っている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の散歩や買い物など随時希望に合わせて行っている。今年は旭山記念公園散策など行った。ご家族の中には一緒に銭湯や外食、図書館などに出掛けている方もいる。	行事的な外出のほか、その時々希望を汲み取った外出支援に取り組んでいる。コロナ禍対策を講じながら、散歩やベンチでの日光浴、野菜の収穫やコンビニでの買い物など、外気に触れ、気分転換できるよう工夫している。少人数構成で、近郊の公園散策の外出行事を企画、実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	過去に金銭の紛失などトラブルになった事案もあった為、全てご家族に金銭管理してもらっている状況。残念ながら本人が管理する機会はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話やお手紙でのやり取りができるよう支援している。個人で携帯電話を所持している方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心休まるようにと玄関前や共有スペースに花や植物を置いている。フロア内は小まめに清掃や換気を行い、廊下の壁には写真や皆で作った作品などを飾り、居心地のよい空間づくりに努めている。	リビングは、その時期の季節感を演出し、行事の写真や職員と利用者の手作り品で、心和む雰囲気になっている。家庭的な調度類が配置され、清掃や整理が行き届き、換気、温・湿度も適切に調整している。トイレや居室の表札など、利用者に分かりやすく表示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の居間にはソファを設置しているが利用している人は少なく、独りになれたり、気の合った利用者同士で過ごせる場として個々の居室を利用している方が多い。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた物や家具、写真など持ち込んで頂くようお願いしている。	各居室にクローゼットが備えられ、ベッドやタンス、机、趣味の道具が持ち込まれ、自作の短冊等が掲示されている。できる限り自由にこれまでの生活の継続を支援しているが、変化の兆しには速やかに対応し、安心、安全に過ごせるよう居室環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、洗面所、浴室などには手すりを取り付けている。建物内の場所、居室のタンス中身など分かりやすいようにテープなどで案内や表示している。		